

別紙 1

カリキュラムについて

◎重度訪問介護従業者養成研修課程

(基礎研修課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	3		
1 重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	居宅介護に従事する際の職業倫理について理解し、利用者の地域での生活の状況を把握する	・福祉業務従事者としての倫理 ・在宅生活を取り巻く状況
2 基礎的な介護技術	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する	・介護の目的、機能と基本原則 ・良好な姿勢保持の方法と留意点 ・安全な食事介助の方法 等
II 実習	7		
1 基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術	5	食事、排泄、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得する	・食事の介護 ・排泄・尿失禁の介護 ・衣類着脱の介護 ・体位・姿勢交換の介護 ・生活(清拭、洗髪、口腔ケア等)の介護 等
2 外出時の介護技術に関する実習	2	車椅子への移乗の方法を修得する 車椅子での移動介護の場合の車椅子の取り扱いや移動方法を習得する	・床と車椅子間の移乗 ・ベットと車椅子間の移乗 ・車椅子の取り扱い方 ・車椅子移動介助における注意 ・平地での移動 ・階段における移動 ・エスカレーター、エレベーターの利用 ・乗り物を利用する場合の注意 ・歩行移動介助方法の留意点 等
合計	10		

(追加研修課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	7		
1 医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義	4	在宅生活援助に必要な医学・在宅看護の基礎的な知識を理解し、重度訪問介護利用者への食事・排泄等の介護方法について学ぶ	・日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒 等 ・身体の観察 観察の視点、体温測定、血圧測定 等 ・薬の飲ませ方と保管 ・医療関係制度の基礎知識 ・介護保険法における特定疾病の概要 ・安全な介護方法(食事・清拭・洗髪等)
2 コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度訪問介護利用者へのサービス提供を円滑に実施していくため、言語障害について理解し、対応について学ぶ	・言語障害を伴う障害の種類と特徴 筋萎縮性側索硬化症 ・言語障害のある人への接し方と意思疎通方法とその留意点 利用者個々のコミュニケーションの取り方 意思伝達装置(トーキングエイド等)の使用方法 等
3 緊急時の対応及び危険防止について	1	サービス提供児に起こりうる緊急時の対応と危険防止の方法を学ぶ	・介護提供時の事故防止の留意点と退所のしかた ・緊急時の対処のしかた 利用者への対応、連絡体制 等
II 実習	3		
3 重度障害者の介護サービス提供現場での実習	3	実際にサービス提供を実施している現場で、介護従事者の利用者への対応等を習得する	・基礎研修課程での実習1、2を踏まえ、障害程度区分五又は六である肢体不自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体験する
合計	10		

(統合課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	11		
1 重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	居宅介護に従事する際の職業倫理について理解し、利用者の地域での生活の状況を把握する	<ul style="list-style-type: none"> 福祉業務従事者としての倫理 在宅生活を取り巻く状況
2 基礎的な介護技術	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 介護の目的、機能と基本原則 良好な姿勢保持の方法と留意点 安全な食事介助の方法 等
3 コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度訪問介護利用者へのサービス提供を円滑に実施していくため、言語障害について理解し、対応について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 言語障害を伴う障害の種類と特徴 筋萎縮性側索硬化症 言語障害のある人への接し方と意思疎通方法とその留意点 利用者個々のコミュニケーションの取り方 意思伝達装置（トーキングエイド等）の使用方法 等
4 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義①	3	喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害や喀痰吸引の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を修得する	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸について 呼吸異常時の症状、緊急時対応 人工呼吸器について 人工呼吸器に係る緊急時対応 喀痰吸引概説 口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の吸引 喀痰吸引のリスク、中止要件、緊急時対応 喀痰吸引の手順、留意点
5 経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義②	3	経管栄養を必要とする重度障害者の障害や経管栄養の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を修得する	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の把握 食と排泄（消化）について 経管栄養のリスク、中止要件、緊急時対応 経管栄養の手順、留意点
II 演習	1		
喀痰吸引等に関する演習	1	喀痰吸引等の手順を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引（口腔内） 喀痰吸引（鼻腔内） 喀痰吸引（気管カニューレ内部） 経管栄養（胃ろう・腸ろう） 経管栄養（経鼻）
II 実習	8.5		
(1) 基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術	3	食事、排泄、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 食事の介護 排泄・尿失禁の介護 衣類着脱の介護 体位・姿勢交換の介護 生活（清拭、洗髪、口腔ケア等）の介護 等
(2) 外出時の介護技術に関する実習	2	車椅子への移乗の方法を修得する 車椅子での移動介護の場合の車椅子の取り扱いや移動方法を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 床と車椅子間の移乗 ベットと車椅子間の移乗 車椅子の取り扱い方 車椅子移動介助における注意 平地での移動 階段における移動 エスカレーター、エレベーターの利用 乗り物を利用する場合の注意 歩行移動介助方法の留意点 等
(3) 重度障害者の介護サービス提供現場での実習	3.5	実際にサービス提供を実施している現場で、介護従事者の利用者への対応等を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修課程での実習1、2を踏まえ、障害程度区分五又は六である肢体不自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体験する
合計	20.5		

※社会福祉士及び介護福祉法の一部を改正する法律の施行について（喀痰吸引等関係）（平成23年11月11日社援発1111第1号厚生労働省社会・援護局長通知）第5の2（4）により第3号研修の一部履修免除として取り扱われる科目については、当該通知に基づく科目を履修したものとして取り扱うことができる

（行動障害支援課程）

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	6.5		
1 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の対象となる行動障害 ・強度行動障害の定義 ・強度行動障害支援の歴史的な流れ ・知的障害／自閉症／精神障害とは ・行動障害と家族の生活の理解 ・危機管理・緊急時の対応
		強度行動障害と医療	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と精神科の診断 ・強度行動障害と医療的アプローチ ・福祉と医療の連携
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害／他（例）支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修
		構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化の考え方 ・構造化の基本と手法 ・構造化に基づく支援のアイデア
		支援の基本的な枠組みと記録	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の基本的な枠組み ・支援の基本的なプロセス ・アセスメント票と支援の手順書の理解 ・記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ
		虐待防止と身体拘束	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止法と身体拘束について ・強度行動障害と虐待
		実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期における支援の実際 ・成人期における支援の実際
II 演習	5.5		
1 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	情報収集とチームプレイの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手とその方法 ・記録とそのまとめ方と情報共有 ・アセスメントとは
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	固有のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なコミュニケーション方法 ・コミュニケーションの理解と表出 ・グループ討議／まとめ
3 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にあるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚・知覚の特異性と障害特性 ・行動障害を理解する氷山モデル ・グループ討議／まとめ
合計	12		

◎同行援護従事者養成研修

(一般課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	12		
1 視覚障害者（児）福祉サービス	1	視覚障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の背景、動向、制度とサービス ・視覚障害の概念と定義、現状 ・視覚障害者の移動支援制度の変遷 ・移動支援と同行援護 ・移動に関する制度
2 同行援護の制度と従業者の業務	2	同行援護の制度と従業者の業務を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・同行援護概論 ・同行援護従業者の職業倫理 ・同行援護の制度、制度の利用 ・同行援護従業者の業務 ・リスクマネジメント、実務上の留意点
3 障害・疾病の理解①	2	業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的・実践的視点で理解するとともに、援助の基本的な方向性を把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者についての理解、実態とニーズ ・「見え」の構造 ・視覚障害の原因疾病と症状 ・同行援護の留意点
4 障害者（児）の心理①	1	視覚障害者（児）の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・先天性視覚障害者の心理 ・中途視覚障害者の心理
5 情報支援と情報提供	2	移動中に必要な情報支援、情報提供の基礎を修得する	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による情報提供の基礎 ・移動中の口頭による情報支援 ・状況や場面別での情報提供
6 代筆・代読の基礎知識	2	情報支援としての代筆・代読の方法を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・代筆、代読、点字、音訳の基礎 ・情報支援機器の種類 ・自ら署名・押印する方法など
7 同行援護の基礎知識	2	同行援護の目的と機能を理解し、基本原則を把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な考え方 ・視覚障害者への接し方、同行援護中の留意点 ・歩行に関する補装具、用具の知識 ・日常生活動作に関する用具の知識 ・環境と移動に伴う機器
II 演習	8		
1 基本技能	4	基本的な移動支援の技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつから基本姿勢まで ・基本姿勢と留意点 ・してはいけないこと ・歩行、曲がる ・狭い場所での通過 ・ドアの通過 ・いすへの誘導 ・段差・階段 ・交通機関の利用の基本
2 応用技能	4	応用的な移動支援の技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に応じた歩行 ・さまざまな階段 ・さまざまなドア ・エレベーター、エスカレーター ・車の乗降 ・車いす利用の視覚障害者への対応
合計	20		

(応用課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	2		
1 障害・疾病の理解②	1	業務において直面する障害・疾病を医学的、実践的視点でより深く理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・「見える」ということ ・「見えること」と「行動」 ・弱視の見え方・見えにくさ ・盲重複障害について
2 障害者（児）の心理 ②	1	視覚障害者（児）の心理に対する理解を深め、適切な対応について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容 ・家族の心理 ・視覚障害者の人間関係
II 演習	10		
3 場面別基本技能	3	日常的な外出先での技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口やカウンター ・買い物 ・雨の日、雪の日 ・金銭、カード ・電車の乗降の留意点 ・バスの乗降の留意点 ・船、飛行機の乗降の留意点 ※当事者の参加に努めること
4 場面別応用技能	3	目的に応じた外出先での技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、薬局 ・式典、会議、研修など ・冠婚葬祭 ・盲導犬ユーザーへの対応 ※当事者の参加に努めること
5 交通機関の利用	4	交通機関での移動支援技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・電車、路線バス利用時における移動支援の実際 ※当事者の参加に努めること
合計	12		

◎行動援護従事者養成研修

科目名	時間数	内容	
I 講義	10		
1 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の対象となる行動障害 ・強度行動障害の定義 ・強度行動障害支援の歴史的な流れ ・知的障害／自閉症／精神障害とは ・行動障害と家族の生活の理解 ・危機管理・緊急時の対応
		強度行動障害と医療	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と精神科の診断 ・強度行動障害と医療的アプローチ ・福祉と医療の連携
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害／他（例）支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修
		構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化の考え方 ・構造化の基本と手法 ・構造化に基づく支援のアイデア
		支援の基本的な枠組みと記録	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の基本的な枠組み ・支援の基本的なプロセス ・アセスメント票と支援の手順書の理解 ・記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ
		虐待防止と身体拘束	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止法と身体拘束について ・強度行動障害と虐待
		実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期における支援の実際 ・成人期における支援の実際
3 強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義	3	強度行動障害支援の原則	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによる支援の重要性 ・支援の6つの原則 ・地域で強度行動障害の人を支える
4 強度行動障害と生活の組立てに関する講義	0.5	行動障害のある人の生活と支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害のある人の家族の想い ・日中活動場面における支援 ・夕方から朝にかけての支援 ・外出場面における支援

科目名	時間数	内容	
Ⅱ 演習	14		
1 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	情報収集とチームプレイの基本	<ul style="list-style-type: none"> 情報の入手とその方法 記録とそのまとめ方と情報共有 アセスメントとは
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	固有のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 様々なコミュニケーション方法 コミュニケーションの理解と表出 グループ討議/まとめ
3 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にあるもの	<ul style="list-style-type: none"> 感覚・知覚の特異性と障害特性 行動障害を理解する冰山モデル グループ討議/まとめ
4 障害特性の理解とアセスメントに関する演習	3	障害特性とアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性の理解 障害特性に基づくアセスメント 行動の意味を理解する
5 環境調整による強度行動障害の支援に関する演習	3	構造化の考え方と方法	<ul style="list-style-type: none"> 強みや好みを活かす視点 構造化の考え方 構造化の方法
6 記録に基づく支援の評価に関する演習	1.5	記録の収集と分析	<ul style="list-style-type: none"> 行動の記録の方法 記録の整理と分析 再アセスメントと手順書の修正
7 危機対応と虐待防止に関する演習	1	危機対応と虐待防止	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応の方法 虐待防止と身体拘束
合計	24		